

木と共に生きて

細田安治

23

コモへ

OBBER社からパリ経由でミラノへ飛び、列車で北上しスイス国境に近いコモ湖のコモ市のTABBU社のリ・コンボーズ（人工ツキ板）工場を訪問した。

価格の安い木を使い、それに技術を加え、工業化木材を創造し利益を上げていく。コモでは、糸から染色し織物とする技術に優れた技術者集団の職人町だ。この技術の思想が発展し延長線上で開発されたものがリ・コンボーズである。TABBU社幹部に面会し数々の質問をして分ったことは、アフリカから「ワウ」材を仕入れ、専用船の船内で、ツキ板・乾燥・裁断し、単板にしてコモ工場に入荷する。こう言われたがほんとかなと思った。

この単板を、生産する樹種によって、それぞれ着色する。本目の生産は木目ごとに、木型の積み上げ圧力を加えて木目なりの成形をする。この作業により人工木目の板

子盤が出来上がる。解圧して、養生後スライサーにかけ、立派な木目の単板が出来上がる。これがリ・コンボーズの生産工程だ。

ヨーロッパ訪問

①

以前に凸版印刷と「秋田杉 証目化用人工ツキ板」を開発し売り出したが、売る方の意識が追いつかず上手くいかなかった。これも残念ながらさきほどホワイトアッシュ、フランスオークと同じだ。

2002年（同14年）、東京市場製材協同組合と東京ツキ板商工業会の合同で中国の人工ツキ板工場ビッグウッドを訪問したことがある。スライサーで加工中の単板生産は見たが、人工木材圧縮工程は見せなかった。やはり秘密はこの辺にあるのか。

一路「フランクフルト」へ

コモで渡辺氏とそしてミラノで安藤さんと別れた。安藤さんは、ローマ在住の従兄弟の方にお会いして、2日後、パリで合流し便の決まっているエアフランス機で一語に帰る約束で別れた。

タクシードミラノ空港へ一人で無事到着。フランクフルト行きは搭乗口で待っていて、も一向にゲートが開かない。そのうちに、イタリヤ語でなにやらアナウンスがあったものの、何のことやらわからずまごまごしている。日本人

旅行者が、「ミラノ行きは、霧で飛び立ってない。いつ飛べるかわからない」と教えてくれた。

やっと霧が晴れ飛行機に搭乗、フランクフルトに到着した。広大な飛行場の表示を見ながら教えられた通り進むと、ヴァイニツヒの出迎エドライバーのギナー君が「Good」と書いた布を掲げて迎えてくれた。

ヴァイニツヒ社のジャック・パワー 極東担当と筆者。後ろに歓迎メッセージがある

は親切に、特に学ばなければならぬところだ。

ヴァイニツヒには見学者専用のシヨールームがあり、マイスターといわれる技術者が様々な機械を操作しながら説明してくれた。

本工場は、24時間操業なので十分に視察できた。3階建てで上から組み立て順に下りてくる仕組みだ。

さらに広い工場内にはいくつものコンベアラインがあり、組み立て順に並べられていた。3交代勤務ですでに2直の時間だ。働く人は広い工場に数えるほどの小人数だ。1台に1人の作業員が組み立て作業をしている。

びっくりしたのは、部品を取りに行く時である。広い工場内の3階建てをぶち抜いたような高さだ。部品は工場の両脇壁に収納されている。1台の機械に1台の椅子つきのタワーリフトがあり、このリフトを駆使し上下左右の壁に収納されている部品を取り出している。このリフトも早い作業員も早い。

ここまでの間で、どれだけ苦労したのだろうか、流石だ。ドイツは人口が少なくヒダは人口が少なく働き手を外国人に求めている。

しかし、肝心なところは自国人しかも、熟練したマイスターだ。そのマイスターを使いこなす仕組みの一つがさきほどの壁収納の在庫だ。この管理をどうしているのか聞きたかったが時間切れとなり残念だった。

人間本位の経営

次の教訓は、人を大事にする人間本位の経営だ。床は木材屋に癒しくもあるフローリングブロック張りだ。足が疲

れず健康に良いとのこと。木工機械メーカー、ヴァイニツヒならでの心配りだ。ドイツは第2次大戦で人手が激減している。特にタウバーは、ドイツ国内で一番の激戦地、住民に多数の犠牲者が出た地域だ。更に都会地から遠く離れた工場団地で住民の少ないところだ。工場従業員6500人と聞いたがよくも集めたものだ。細田ではまだまだ人集めの努力が足りない。

ヴェツェルブルグ

タウバーから40分離れたフランク地方のヴェツェルブルグまで吉原信子さんが、愛車マツダファミリアでアウトバウンドを時速150kmのスピードで飛ばし送ってくれた。この街はロマンス街道の起点であり歴史的にも有名なところだ。古い木造で風情あるホテルREBSTOCKに宿泊した。ここでの食事と、フランクワインの白がとても美味しかった。

◇ここでの教訓

1. お客様には親切に。ヴァイニツヒは見学者がいる限り、何時までもマイスターなど関係者は嫌がらず親切に対応してくれる。

2. ハードの技術とソフトのマイスター。使いこなす仕組みづくりだ。

3. 人を大事にする経営。木造の床と人集めの極意だが聞けなかった。

ヨーロッパのお土産

人工ツキ板、パリのオルセー美術館、ヴァイニツヒのサーピスと在庫管理、そして何よりも安藤氏の薫陶に触れることができたことだ。同時に渡辺氏から幅広い知識を吸収する機会を頂き心から感謝申し上げます。 2次回は18日付

（細田木材工業(株)会長）